病院誘致 市民の望む病院はできるのか？

公募条件が後退、市財政も逼迫、病院誘致には疑問がいっぱい

逗子アーデンヒル入口交差点

●交通量調査結果、拡幅工事をしなくても渋滞せず

交差点渋滞調査（今年８月報告書）で**６千万円の拡幅工事**は必要ないと報告されました。

●交差点拡幅工事を進める理由はあるのか？

市は病院まで路線バスを入れたい意向で京急と交渉中。県の協力がなくても、市負担で県道拡幅を図る考えです。

●路線バスか、シャトルバス、どちらが運行されるのか？

病院シャトルバスを運行すれば、路線バスの採算性に影響が出ることは間違いありません。京急との交渉も進展せず、病院シャトルバス運行も決定されていません。共産党は市内各駅や地域からシャトルバスの運行すべきと要求。

●差額ベットは５割？どこまで取られるのか？

葵会の病院計画では、病床数300床（現109床）を確保できた場合、**５割のベットから差額ベット料を取ろうしています。**近隣の公的病院は**２割**です。それと比較して利益優先にも見えますし、料金も未だに定まっていません。

※逗子市「**財産の交換、譲与、無償貸与等に関する条例**」より

抜粋　無償で普通財産（用地）を貸し付ける場合、「県や市町村その他公共団体又は公共的団体において公用若しくは公共用又は公益事業の用に供するとき」となっています。

●過去の共済病院やヨゼフ病院は公的医療機関の病院でした。差額ベットを比較しても葵会と性格の違いがわかります。

●病院誘致の公募後、新年度に財政危機に陥る

昨年10月に病院誘致に動き出し、用地の無償貸与で公募を実施。ところが今年６月に財政危機が発覚。

●財政危機でも無償貸与なのか？

財政危機が深刻だという一方で、売却すれば数十億円の病院用地について無償貸与にこだわり、**「葵会との約束を守りたい」**と有償化について否定し続けています。

●市民意識調査でも有償が多数なのにどうして無償？

市民の７割が有償、２割が無償

【まちづくり市民意識調査　平成18年3月より掲載】

★質問　総合的病院を誘致するための借地料については…

「固定資産税相当額を地代としてとるべきである」➪39.3%
「一般的な地代をとるべきである」➪31.4%
「無償でよい」➪20.4%

調査当時より悪化した現在の財政力。将来的には人口減少でさらに税収も減ることが予測できます。市有地は市民の財産です。無償貸与を止める賢明な決断をすべきです。

●小児救急はどこに行ったのか？公募の約束では…

市は葵会と協議する中で、公募条件であった小児救急を諦めてしまっています。市長は、市民を代表して交渉するなら葵会（病院法人）に公募条件をしっかり守らせるべきです。

■逗子民報「議会報告」について　みなさんのご意見をお寄せください。

岩室年治　橋爪明子

逗子民報

日本共産党逗子市議団

2017年（H29）11月　第447号

市役所　TEL　873-1111　控室内線418
事務所　沼間2-15-4　FAX専用871-7969

緊急財政対策の７億円を市民と職員が尻拭い負担

平井竜一市長は、来年度予算で７億円が不足するとして、今後５年間の財政プログラム（緊急財政対策）を策定し、公表しました。市長の説明では原因を歳入の見込み違い、財政調整基金の積立金が少なかったとしています。しかし、県内で逗子市だけがこの事態を生んでいることを考えれば、市政運営に問題があったことは間違いありません。振り返れば平井市政になって、箱物の**大規模事業（池子第一運動公園の再整備10億、池子の森自然公園８億）**が続き、維持管理も増大。また、財政力のある自治体と比較しても到底身の丈にあわない事業も増えてしまい、その結果の財政危機ではないでしょうか。

市民のみなさんからは「市長は辞めてもらえ」など厳しい批判。また「いつまでに財政再建できるのか」と心配の声も寄せられています。

７億円内訳

職員給与等の削減	２億７千万円
市民サービスの削減	２億６千万円
国保への補てん削減	１億円（国保値上げ）

共産党は財政危機の責任について、市長に質し「市民には責任はない」と答弁。実際には市独自サービスはなくし、最低に抑える方針です。職員の責任について、正規・非常勤含めて「私（市長）の補助職員であり責任はある」と答弁。これでは民間の社長が経営の失敗を部下にかぶせるような話しではないでしょうか。市長の責任の取り方として、給与（年収1400万円）を年間500万円減給するとしています。但し市長任期は30年12月、退職金約1300万円は対象としていません。市長は退職金は「政治判断する」と答弁。結局考えておくと言うことです。

市長の退職金を廃止

自治体	支給額
鎌倉市長	１５３７万円廃止
川崎市長	３１２０万円廃止
横須賀市長	２２２７万円廃止
藤沢市長	１千万円減額638万円支給

休止・凍結の復活は予定なし ５年間は緊縮財政が継続します

市長は当面２年間と言っていますが、財政対策は５年間で財政再建をめざしています。膨れた予算を戻すことはありません。又休止・凍結の復活は見込まれていません。市政の根本的な転換が必要となっています

聖域化された池子と病院誘致 今やるべきは福祉教育を守ること

防球ネット１億円　整備済み

平井市長が発案した**池子の森自然公園計画（整備費８億円）は残り４億円。**共産党は凍結を要求。市長は国と米軍との協議を理由にして**凍結・中止**を明言しません。

共同使用後、条例で施設使用料、駐車料も徴収。公園管理費に年間５千万円。市民の負担が増えるばかりです。

病院誘致（詳しく裏面）は、市長の箱物公約の一つです。**病院誘致関連経費１億円を負担**しても「葵会」に対しては事実上永続的に無償貸与と決め込み、来年の協定締結をめざしています。市長の政策判断を改めさせる必要があります。

作業員詰所８千万円 整備済み

小さな声がみんなを動かし2500の陳情署名　議会了承　廃止が休止に

一方的廃止に怒りの声　廃止は撤回

年金も減り、お弁当を持って高齢者センターに通い、楽しみの浴場が「廃止」。その貼り紙一枚に驚き、友人に相談したら署名運動が始まり、議会も応援。願いは休止でなく、浴場の再開です。市長には市井の人の声を聞いてほしい。

高齢者センターの浴場